

<熊本支部例会抄録>

日時：2024年5月14日（火）19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

一般講演抄録 2

歯科と全身疾患との関わり

— 心と体と地球に優しい共通認識の再確認 —

添島正和 （医）平和会 添島歯科クリニック

熊本市東区京塚本町7-7

■抄録

1972年、筆者は東京歯科大学卒業と同時に、山崎長郎先生と霞が関ポストグラデュエイトを受講した。

その後、熊本で丸森賢二先生主催の横浜臨床座談会6回コースを受講した。

中でも臨床記録（スライド、X線写真）の規格性の重要性に直接触れた事がこれまでの臨床の基礎を担っている。

森克栄先生、レイモンド・キム先生とも出会い、その後の歯科医師として、人としてのあるべき姿を教わった。

今日まで地道に成功例・失敗例・保険・自費などの区別なく、ほとんど全ての患者の規格化された臨床記録を蓄積してきた結果、10年以上の予後経過を追っている患者は1,000名以上となった。中でも50年以上良好に経過した症例を視るにつけ生体恒常性の不思議さに驚嘆している。

一方、歯周病（咬合）と全身疾患との関わりが多くのエビデンスにより明白で、私も30年以上前から炎症と力のコントロールを行なった症例の術前・術後の変化を見るにつけ、臨床実感として全身状態が改善していくことに薄々気づいていた。

しかし、時代の変化と共に「7年前から位相差顕微鏡による細菌検査と血流モニターを用いて400名以上に応用したところ歯周病菌と毛細血管の老化には、明らかに相関関係が認められた。ORA LOOK（口腔内蛍光観察装置）を臨床に取り入れ、実際、当院患者の舌ガンの発見に至った事実もある。

また、患者にとって菌数が増えると毛細血管のゴースト化が進み、菌数が減ると毛細血管が正常化する可視化の事実がより精度の高い口腔ケアと毎月の定期的なメンテナンスをルーティン化した。

垂直的歯根破折歯（V. R. F）への保存・慢性重度歯周炎に対する意図的再植・天然歯・歯髄の保存に徹底的にこだわり、歯性上顎洞炎回避の為にエンドスキルアップ、全身の血管の老化を予防し、医療費削減に貢献する歯科の潜在力の高さを国民に周知する臨床の一端を披露したい。